

R6年度 教師と児童が共に学び、学び合いを通じた学び方の習得
～指導の個別化・学習の個性化を図る効果的なICTの活用を通して～



校内研修通信①

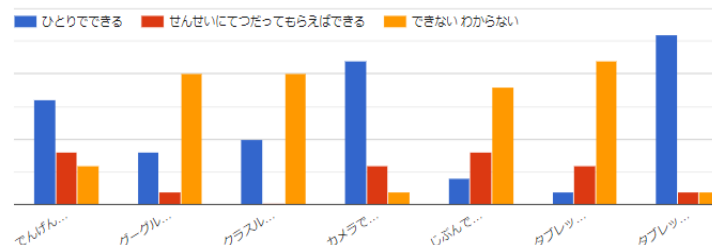
校内研修通信を始めます！

校内研修の限られた時間で、先生方に伝えることや先生方と全てを学ぶということは、なかなか難しいなと思い、校内研修通信を始めようと考えました。今年度の研究や、日々の先生方の授業につながる何かを、この校内研修通信に残せたらと思います。文章をかくのが苦手なので、文面や分かりづらいところがありましたら、すみません、、、。いつでも、尋ねていただけたらと思います！自分に余裕があるときに通信を出しますので、、、ぜひ読んでいただけたらと思います。

先日のアンケートありがとうございました。

しつもんをよくよんで、みぎのかいとうをあらんでください。

コピー



しつもんをよく読んで、右のかいとうをえらんでください。

コピー

先日低・中・高に分かれて、情報活用能力の実態調査を行いました。ご協力ありがとうございました。

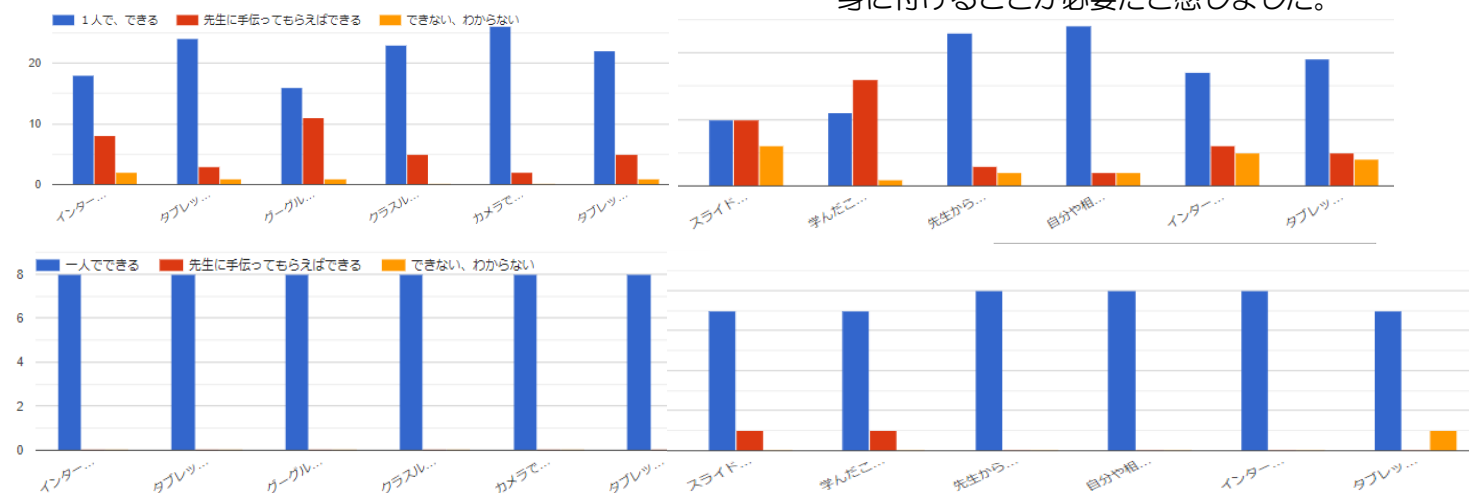
この結果から、

低学年：簡単なタブレットの機能を活用

中学年：スライドの活用

スプレッドシートへの振り返り

高学年：活用する能力は身につけているため指示されてICTを使うのではなく、自分から活用する力身に付けることが必要だと感じました。



授業について

毎週末熊本に帰るときの船の中で、学校のホームページをみます。そのなかで、様々な学年でICTの活用、算数の習熟の時間に自分で学び方を選んで学習する姿があり、意識して取り組んでいただきありがとうございます。先日の校内研修では、教師がしゃべりすぎず、子どもにまかせる時間をという話をしました。5年生の授業の様子を動画にとってみたので、共有→こ 校内研修まとめ→「5年 授業動画」をいれておりますので、お時間あるときに見ていただけたらと思います。全部じゃなくて大丈夫です！

4.2×3.4の筆算のしかたを考えましょう。

子どもたちが取り組んだのは、小数×小数の筆算です。子どもたちは今まで、小数のかけ算は小数を整数にして、それをもどすということをおこなっていました。その学習を生かして、筆算はどのようにするのかおこないました。

学習の流れとしては、

問題を読む→課題をたてる→今までの計算のやり方で計算してみる→答えの確認→答えをたしかめながら筆算のやり方を考える（自分たちで）

【学習の流れ ダイジェスト】

7：33 自分たちで学習をはじめ

14：47 自分から別の班に聴きに行く姿がみられる

15：32 4.2×3.4を0.42×3.4にかえても、答えが同じになることに気づきおかしい！と思うようになる（小数点の個数分、動かせばいいと思っている）

22：00 全体で話す

24：00 ひっさんの仕方について 話し合いがずれていく

29：20 児童同士の話し合いについて、他の児童に広げる。（疲れが出てきて、聞いてなかったように感じたので）

32：10 話し合いがまとまらないので、教師が出る。というような流れです。

児童は25分近く、自分たちで話し合いを進めていました。

動画をみると、子どもたちの人間関係、子どもの発言・考え方のこだわり、子ども自身の学力の差などが個別最適な学びの中に現れているように感じました。結局、話し合いが終わったのが5分前だったので、適応問題も解けずという授業でした、...

話し合いが子どもたちにとって有効だったのか、話し合いはせずに筆算のやりかたを教えて練習をいっぱいさせればよかったのではないかと反省しています。子どもはしっかり理解していたのか、ふりかえりをかかせました。

小数の掛け算のときは整数にするにはなんけた動かさないといけないかを考えて計算する。例えば二桁動かして整数にして一けた動かして整数にするなら答えの小数点の場所を三桁動かさないといけないということです。

次の少数の掛け算の勉強でもこれを素早く使いたいです。前の勉強で整数にして考えるという方法をしたら筆算の式が少し難しかったけどなんとなくわかりました。

わかったことは、1たす1は、2だから、しょうすが、2うごくのが、わかりました。大人になってもいかしていきたいです。

ふりかえりを通してそれぞれが自分なりに、理解しているのだと感心しました。

個別最適な学びと習熟の時間のバランスには非常に悩んでいるところです。しかし、児童自身が自分から学んで、友だちに聞いたり、教科書のみたりしている姿はとても大事なことだと感じました。